



医療法人社団 仁恵会

石井病院

人工透析ひ尿器科じんけいクリニック

Now
Vol.222

- Since 2008

JINKEIKAI NEWSPAPER

発行：2026.9



石井病院 看護部 活動報告 2026年7月11日（土）神戸国際会議場 開催 第12回 「地域包括ケア推進病棟研究大会」に参加・研究発表しました

● 地域包括ケア推進病棟研究大会とは

地域包括ケア病棟を有する全国の医療機関が集い、各施設の実践や研究成果を共有し、地域包括ケア病棟の質の向上を目的として開催される研究大会です。

超高齢社会の進展に伴い、高齢者や独居世帯の増加、認知症、複数の疾患を抱える患者が増加しています。地域包括ケア病棟には、急性期治療後の医療だけでなく、在宅復帰支援や生活支援、多職種・地域との連携など、「その人らしい暮らし」を支える役割がこれまで以上に求められています。

● 当院（2階地域包括ケア病床）の研究発表結果

研究テーマ「多職種による入院治療介入が奏功した下腿うっ滞性潰瘍の一例」

本研究では、昨年、2階地域包括ケア病床に入院された下腿うっ滞性潰瘍を有する54歳男性に対し、圧迫療法や創傷管理、栄養管理、リハビリテーションなどの複合的な治療に加え、生活背景も踏まえた包括的な支援を多職種が連携して実施した結果、入院29日目に在宅退院へ至った症例を報告しました。

近年では、病気の治療だけでなく、患者や家族の生活背景や社会的課題にも目を向け、地域の医療・介護・福祉などの社会資源につなぐことで、生活全体を支えることが重要とされています。今後は、医療だけでは解決できない生活上の課題を抱え、「社会的処方」を必要とする患者がさらに増加すると考えられます。地域包括ケア病床や在宅療養支援病院では、多職種が連携し、地域の医療・介護・福祉などの社会資源を活用しながら患者の生活を支えることが、今後ますます重要になります。今回の研究は、その実践を示す一例となりました。



（発表の様子：発表者 看護部 野口 柚季）

● 研究大会を通して学んだこと

研究大会では、全国の施設から地域包括ケア病棟でのさまざまな実践が発表され、多職種がチーム医療として患者さんやご家族を支える重要性が共通したテーマとなっていました。

患者さんやご家族が抱える課題は、医療だけでなく、生活、介護、栄養、リハビリテーション、退院支援など多岐にわたります。そのため、問題解決には医師や看護師だけでなく、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、MSWなど、多職種がそれぞれの専門性を発揮しながら協働することが不可欠であると改めて実感しました。

また、研究大会への参加・発表を通して、当院の取り組みを全国へ発信するとともに、地域包括ケアを取り巻く社会情勢や他施設の実践について学ぶことができました。スタッフ一人ひとりが自分たちの役割を改めて見つめ直し、多職種連携の重要性を再認識するなど、今後の実践につながる大変貴重な機会となりました。

● 当院の今後

当院は在宅療養支援病院として、「治し、支える医療」の実践に向け、地域包括ケア病床の機能をさらに充実させるとともに、地域との連携を一層強化していく必要があります。

今回の研究大会で得た学びを院内全体で共有し、「社会的処方」の視点を取り入れながら、多職種がそれぞれの専門性を発揮し、協働することで、患者さん一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、暮らしを支える地域包括ケアの実現に努めてまいります。



看護部長代行
小松原 史子



人工透析ひ尿器科じんけいクリニック 透析と社会をつなぐ

～ 仕事・家庭・地域とつながり続けるために ～

透析治療が始まると、通院開始時間だけでなく、仕事や家事、家庭内の役割、通勤手段、人との付き合い方まで、生活全体を見直す必要が出てくる場合があります。

それでも、透析患者さんにとって「社会とのつながり」を保つことは、生活の質や将来への希望につながる大切なテーマです。

社会とのかかわりが大切な理由

「治療を受けること」と「その人らしく暮らすこと」は、どちらも大切です。

働き続けたい、家族の役割を続けたい、地域とのつながりを失いたくないという思いは、透析患者さんにとって自然で大切な願いです。

透析導入をきっかけに生活を大きく変えざるを得ないこともありますが、治療を続けながら社会との接点を保つことは、安心感や意欲にもつながります。

当院が大切にしていること

当院では、透析を単なる「治療」ではなく、患者さんの「生活の一部」として無理なく続けていく医療として考えています。

そのため、通院時間だけでなく、勤務や通勤状況、家庭状況、体力や経済面などを踏まえ、負担の少ないスタイルを一緒に考えます。

- 生活に合わせた通院時間の相談
- 仕事との両立を見据えた準夜帯透析
- 状況に応じた個別対応
- 医療と生活の両面を支える多職種連携



MSWができる支援

当院では、医療ソーシャルワーカー（MSW）が常勤し、医師・看護師・臨床工学技士などと連携しながら、患者さんとご家族の生活面の相談に対応しています。

MSWは、制度説明だけではなく、「これからの生活をどう整えていくのか」を一緒に考え、生活全般を支援する役割を担っています。

- 仕事の継続や働き方に関する相談
- 家庭内の役割や通院負担の整理
- 必要に応じた勤務先や支援者との連携
- 医療だけでは見えにくい生活課題の把握と整理

紹介元病院から広がる支援

透析導入前後には、「治療は必要だが、この先の生活が想像できない」という不安が生じやすくなります。そのため、急性期病院や基幹病院での治療を行いながら、維持透析へ移行後の生活についても考えていくことが必要となります。当院では、ご紹介を受けた時点から導入病院との情報共有を開始いたします。

病状だけでなく仕事・家庭・通院手段などの生活背景を丁寧に確認し、維持透析へ移行後の生活全般についてご相談に応じます。早い段階から一緒に検討していくことで、治療後の維持透析が安心して開始できるよう支援いたします。

準夜透析という選択肢

当院では、現役世代の患者さんや、昼間の通院が難しい患者さんからのご相談を受け、準夜帯の透析体制を広げています。18時までの来院では4時間透析、18時30分までの来院・19時開始では3時間透析に対応し、必要に応じて短時間透析や土曜日午前での補完も個別に検討しています。

開始時間を一律に固定するのではなく、それぞれの患者さんの生活時間に合わせた個別対応を基本としている点が特徴です。

こんな相談を受けています

- 仕事を続けながら透析を受けたい
- 昼間は家族の介護や育児があり通院しにくい
- 通勤と通院との両立を考えたい
- 透析導入後の生活をできるだけ変えたくない
- 透析導入中だが、今後の生活について相談したい



■ 医療連携相談室

TEL 078-918-1512 FAX 078-918-1725
平日 9:00～12:00 14:00～17:00
土曜 9:00～12:00
担当 古門 村上 森

編集・発行

医療法人社団 仁恵会 石井病院
〒673-0881 明石市天文町1-5-11
TEL 078-918-1655 FAX 078-918-1657
<https://jinkeikai-group.or.jp/isih/>

